

令和5年度 第4回 SJAC講演会を開催

(一社)日本航空宇宙工業会(SJAC)は、令和5年11月28日(火)、SJAC革新航空機技術開発センター(革新センター)による技術動向調査活動の一環として、日本航空宇宙学会(JSASS)のご協賛を得てSJAC講演会を開催した。

1. 講演会開催の背景

SJAC革新センターでは、将来出現が予想される高性能の革新的航空機の開発に必要とされる技術について調査、及び実用化研究開発等を推進する活動を行っている。

革新センター企画委員会が革新技術として重要と位置づけた技術領域群に対し、JSASSが推薦するその分野の研究者を講師に迎え、新技術の動向を知る機会、そして会員企業と研究者の産学連携に向けた交流の場として講演会を企画した。本主旨の講演会は令和元年度から毎年開催し今回が5回目である。

2. 講演会の概要

(1) 講演会は、SJAC会議室にて対面及びオンラインによるハイブリッド形式で行い、30の会員企業及び団体から86名(対面7名、オンライン79名)の聴講者が参加した。

(2) 講演に先立ち、革新センター 所長 河内啓二氏(東京大学名誉教授)は、「日本の航空機開発にとって厳しい状況が続いているが、広く俯瞰して技術をコツコツと蓄積していくといつかチャンスが訪れると思う。比較的日本人はそういう事が得意である。新しいチャンスを求めてこの様な場で技術の蓄積の方向性を考えて頂きたい。」と挨拶した。

続いて、JSASS会長 森田 泰弘氏(JAXA)からは、「JSASSでは新たな時代に相応しい学会に生まれ変わる、をスローガンに取り組みを進めている。その為の施策の一つは産学の連携であり、大きなことをやる時に一緒にやってくれるパートナーを増やしていきたい。SJACとの連携は産業界の皆様と関係を深めていく上で大変有り難い。」と挨拶された。



SJAC革新航空機技術開発センター所長 河内 啓二氏



JSASS会長
森田 泰弘氏

(3) 3人の講師から、以下のご講演をいただいた。

(ア) 「航空機エンジン用セラミックス基複合材料（CMC）の研究開発」

JAXA 航空技術部門

航空機ライフサイクルイノベーションハブ
主任研究開発員 小谷 政規 氏

概要：

航空機エンジンの燃費改善のキー技術として、その高温部への適用が急速に進んでいるセラミックス基複合材料（CMC）について、世界での研究開発と実用化の動向に加えて現在進めているCMC検査技術の研究の紹介。



講師 JAXA 小谷 政規 氏

(イ) 「民間超音速機実現に向けたJAXAの取り組み」

JAXA 航空技術部門

静粛超音速機統合設計技術実証チーム長
牧野 好和 氏

概要：

コンコルドが退役して以降20年間停止していた民間超音速輸送再開に向けた近年の世界動向（実機開発動向、基準策定動向、研究開発動向）に加えて、JAXAの取り組みの紹介。



講師 JAXA 牧野 好和 氏

(ウ) 「航空機ライフサイクルDXの研究開発への取り組み」

JAXA 航空技術部門

航空機ライフサイクルイノベーションハブ長
溝渕 泰寛 氏

概要：

JAXAが取り組んでいる、航空機ライフサイクルDXコンソーシアム（CHAIN-X）の活動とNEDO受託事業「航空機の設計、認証、生産プロセスの革新とプロセス統合」の概要の紹介。



講師 JAXA 溝渕 泰寛 氏

(4) 講演会の終了後に意見交換会を開き、会場の対面聴講者と講師との交流を深めた。

3. 所感

講演は、航空機業界において重要な局面に差し掛かっている分野の題材で、それらの最先端の技術および動向の紹介に対し、聴講者から有益性の観点で高い評価を頂いた。一方、意見交換会では対面聴講者の人数が寂しい状況であった。利便性や経済性ではオンライン

が優位であるが、是非会場に足を運んでネットワーキングや講演内容等の様々な情報交換の機会として有効に活用して頂き、産学連携に繋がることを願う。

最後に、ご協力いただいたJSASS様に改めて厚く御礼申し上げますと共に、今後もJSASSとの協力関係を更に深化させ、日本の航空宇宙産業の発展に貢献する産学連携の活動を目指していきたい。

[(一社) 日本航空宇宙工業会 技術部 部長 松田 圭介]